

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

おはようございます。黒岩幸生でございます。ただいま議長から申されましたように、今回初めてテレビモニターですかね、それを導入することになったわけでございます。これによりまして、市民の皆さん方がより議会と近い関係といいますかね、親しい関係になるように、あるいはまた、詳しくわかるようにということで、これから議会も頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思っております。

御承知と思ひますけれども、パソコンの画面をテレビモニターに映すという手法でございます。だから、パソコンに非常に詳しくなければならぬだろうと思っておりましたけれども、私にでもできるんですという感じですね。今、笑いが出ましたけど、私自慢じゃないですけど、いまだに指一本なんです。しかも、英語ばよう知らんけんばってん、「あいうえお」ですよ。さらに画面見ては打ち切らんですもんね。キーボードを見ながら「し」「ま」「し」「た」ぐらいですけども、アイデア次第でどうにでもなると。そのことによって、ぜひとも議会の議員の皆さん方はいろんな手法を使って、そして市民の皆さんによりわかりやすく、あるいはまた、執行部に対してはより厳しく言えるような質問をぜひともこのテレビモニターを使ってやっていただきたいと思ひます。試運転をしてみたいと思ひます。御披露申し上げますですかね。

（全般モニター使用）今、星のマークが見えていますかね。次は富士山を出しますね。富士山、見えましたか。富士山の横に「祝」という字を白文字で出しました。お祝いは紅白ですので、ここに赤でお祝いということになりますかね。さらに、これからですので、目で見える武雄市議会一般質問ということをつくってみました。ついででしたので、私の名前も入れました。これから始めます。いいでしょうか。

それでは、皆さん、拍手がないので私だけ丸をつけました。

それでは、本題に返って一般質問を行いたいと思ひます。

まず最初に、順序を変えたいと思ひますけれども、通告順序では広域圏の中に放射線被曝を入れておりましたけれども、初日の市長の発言、演告ですね、それから、きょうの新聞を見ておりました、被曝問題を最後に持っていきたいと思ひます。それと、福祉問題とIT行政を入れかえたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

それでは、早速質問に入りますけれども、ごみ処理問題、し尿処理問題、放射線被曝問題は、いずれも廃棄物なんですね。人類が高度的生活をするために地球上にばらまこうとする廃棄物なんですね。これをちゃんと整理しなければ、地球に対して申しわけないという代物でございます。

そういう中で、まず最初、ごみ処理問題についてでございますけれども、佐賀西部広域環境組合に、私が議会議員になったのがちょうど2年前、2回目の当選をいたしまして、4月から議員になったわけでございますけれども、そして、最初勉強したとき、どうしても納得

できないことが一つあったんですね。それまではセメント原料化方式ということで話が進んでおりましたけれども、私がどうしても納得できなかったのは、10億円を福岡へ持っていかなければならないという問題なんですね。10億円。

それはもう少し詳しく言いますと、これから15年で9万トンの灰ができる。そのうちの4万トンをトン当たり2万5,000円かけて処分するという考え方ですね。言葉的には減量化と言うかもしれませんが、我々にとったら廃棄物ですからね。そしたら、2万5,000円掛ける4万トンで10億円、福岡へ持っていくという話だったんですね。これはどうしても納得できないという話から、ちょうど2年前の6月議会で私が申したのは、その4万トンを松浦地区に埋めたらどうかという考えですね。というのも、9万トンありますので、5万トンは松浦地区に埋めるんですね。そして、あと4万トンをお願いして、松浦地区に10億円やったらどうかという話ですね。そうしても、輸送費はまだ浮くんですよ。輸送費もこっち持ちですからね。そういうことで、ここの6月定例会で話をしたところでございます。

そのテレビを見ていた伊万里市議会議員の島田さんですけれども、松浦地区の方ですね。その方がお会いしたいということで、お会いしました。そしたら、10億円もらってくれんかと言ったところ、この方は、そのお金を使ってすばらしい炉をつくってほしい、こうおっしゃったんですね。ダイオキシンの出ないようなすばらしい炉をつくってほしい。なぜならば、島田議員さんがおっしゃったのは、風評被害が怖いというわけです。今でこそ、去年の3.11以来、風評被害がありますけど、当時は余りなかったですね。しかし、彼は風評被害が怖いから、ぜひともすばらしい炉をつくってほしいと、こうおっしゃった。近くには道の駅もあります。ナシ畑もあります。風評被害が起こったら大変なことになるということでおっしゃったんですね。

そして、8月に地元地権者の方がうちに陳情に来られました。その方は非常に廃棄物に詳しい方でしたけれども、その方がおっしゃるには、松浦に埋める5万トンの灰を、生灰と言われたですね。その生灰をスラグにしてくれという話です。それまでスラグという話はよく知りませんでしたけれども、よく考えたら、土を高温で焼けばかたくなるんですね。茶わんがそうですよね。そういう状態にしてくれ、安全・安心のためにという話ですね。

そういうことで、いろんな話がそれから変わってきたわけでございますけれども、ここで市長にお伺いですが、地元はこのように安全・安心に非常に関心が行っていると思いますね。もちろん、地元対策費に対してはある程度限りがあるかもしれませんが、地元の安全・安心対策には最高の水準で臨むべきだと思いますけれども、市長はこのことに対してどのようにお考えか、答弁を求めたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全く同感です。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

やっぱり松浦地区の恩返しは安全・安心、何ととってもこれだと思うんですよね。今度の放射能で特に思ったところがございますけれども、通常よく言われる言葉ですね。のど元過ぎれば熱さ忘れるという言葉がありますね。のど元過ぎれば熱さ忘れる。これは中国のことわざですけれども、井戸水を飲むときには、その井戸を掘った人の苦勞を思い出せという言葉がございます。また、平成19年でございますけれども、佐賀西部広域環境組合で4市5町でやっておりますけれども、この中で松浦地区だけが処分場受け入れに承諾されたという恩があると思うんですよね。

これは焼却炉の煙突ですね。焼却炉と考えれば、すぐ思い出すのがこれですね。ごみ焼却炉と猛毒ダイオキシンという形になろうかと思えますね。地元の安全・安心のためには、特化しますと、ダイオキシンの除去、これが最優先に求められると思いますが、どのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

広域圏の管理者である塚部伊万里市長も同じことをおっしゃっておりまして、ダイオキシンの除去を最優先の課題の一つとして取り上げるべきだということをおっしゃっていますし、私も全く同感であります。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これは、赤い地図は五島列島なんですね。長崎県の五島列島。ここが44年前、何があったかといいますと、カネミ油症問題なんですね。カネミ油症問題というのは、今、市長首をかしげられたように福岡なんですよ。福岡で起こったわけですね。しかし、被害者は五島列島に非常に多いんです。黒い赤ちゃん、御存じですね。生まれたとき、黒かったという話ですね。五島はなぜ多いかといいますと、クリスチャンですか、墮胎禁止のところですね。だから、非常にここは多かった。これが、ダイオキシンの恐怖が特に五島列島であったということは、ごく最近のテレビであったんです。

これは2008年、厚生労働省が初めての肉体病状調査をやったんですね。ダイオキシンです、カネミ油症ですよ。初めてやったということですけども、これは2002年ですよ。坂口労働大臣、厚生労働大臣。これは公明党の方でしょう。お医者さんでしょう。この方が

2002年に原因はダイオキシンと初めて言ったんですよね、カネミ油症の。ここから実態調査になった。それまでPCB、脱臭剤ですね、脱臭剤だと言ってきたのが、脱臭剤が高温でダイオキシンに変わったと言ってくれたのが坂口大臣なんです。その後結局、2004年、出しておりますけど、2004年度に九州大学医学部に油症治療研究所が結成されたんです。そして、2008年の実態調査。だから、30年近く、二十何年何もしてないんです。国はなかなか認めなかったということですね。

その油症治療研究所の古江増隆先生というのはこうおっしゃった。高いけれど、低濃度の化学物質は細胞を殺すまではいかず、常に刺激すると、こうおっしゃったんです。つまり、高濃度の化学物質であれば死にますね。しかし、低濃度でも殺さずに常に細胞を刺激する。ここのところなんです。放射能もこれをやっぱり頭に入れておかなければならないということですね。

さらに古江先生はこうもおっしゃったんです。細胞がさびる。びったりしますね。ぼろぼろになる。もろくなる。つまり耐性がなくなる。感染症というんですかね、いろんなものに弱くなる。細胞がさびるという言葉が使われたんです。

これは、先ほどの2008年の厚生労働省の肉体実態調査ですけれども、いろんなことがあるんです。アレルギー疾患、鼻の病気、粘膜の病気が多いですね。それから、目の病気と。目は物すごく目やにが出るそうですね。ほとんどすべてにわたっていろんな病気が出るんですね。

ダイオキシンは、脂肪に溶けやすい性質を持っているんですね。だから、血液に潜り込む。血液に潜り込んで、今度はなかなか出ないんですね。そういう性質を持っています。だから、血液に入れば、血行障害、血流障害、これは糖尿病と一緒にすけれども、血流障害を起こしやすいんですね。つまり、糖尿病も考えてみますと、血液の中に今度は糖が入るでしょう。糖尿病はだれでも御存じですね。壊死もありますね。いろんな神経障害を起こします。これと一緒に。これよりもっとひどいことをダイオキシンは起こすんだと。放射性物質も恐らくそうですね、という状況ですね。

水俣病、長くかかったですね。水俣病患者さん、あるいはまた、重金属によるイタイイタイ病、これも大分長くかかったんですけれども、ほとんどの方が生まれつきだと思っているんですね。子どものときは、おれは生まれつきこがん体質やっばいねとあきらめるんですね。それから、これは五島の話で出てきましたけれども、頭が痛くなると、一日じゅう割るつごと痛かと。仕事も手につかんといいよんさったですね。全身に吹き出物が出るなどなどいろんなことが出されたんですね。

市長にお伺いですが、低濃度の化学物質——高濃度は人を殺しますが、低濃度の化学物質は細胞を常に刺激する、悪さをすると言われた古江先生の考えはどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

医学的にはよくわかりませんが、実態からしてそうだろうなということは認識はできます。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これは授乳ですね、おっぱいから赤ちゃんにうつっていったという話。しかし、先ほど当初言いました黒い赤ちゃん、これは生まれたとき黒いんですから、本来へその緒ですか、胎盤というのですか、そこから普通入らないんですよ。それがダイオキシンが入って、本当ブドウ色みたいに黒かったという話ですよ。ブドウみたいに真っ黒でしたという話、されていたんですね。だんなさんは顔を出されなかったんですけども、本人出されましたからね、関係者の方がですね。テレビで出たところです。

これは厚労省が調べております先天異常児さんが1万人に対する発生頻度ということで、1974年から2004年まで調査がなされているんですね。これは特に注意してもらいたいのは、ここですね。今、ここ十何年は赤線でも引きましたけれども、急激に右肩上がりになっているというんですね。だから、これは化学物質の影響ではないかと、今非常に言われているんですね。急激にここから伸びていると、赤線のこっちからですね。このように、ダイオキシン除去対策に、先ほどは伊万里市長も言われたということでございますけれども、最高の技術を生かすことが松浦地区の皆さんへの恩返しだと思いますけれども、市長はこのことに対して、副市長でもいいですけども、どのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

前田副市長

○前田副市長〔登壇〕

この対策については、先ほど言われましたように、システムの変更そのものも地元に対する安心・安全ということでされたと思います。そういうことで、今回のスラグの方式によります業者の選定についても、今現在、技術審査委員会で検討しておりますけれども、そういうことをもって今後対応したいというふうに考えます。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

次は、し尿処理問題に移りたいと思います。

まず、私は市長、し尿処理問題、こういう問題もやはり広域圏ですべきだということを主

張したいとまず思っております。

佐賀西部広域環境組合では、し尿処理施設は武雄市衛生処理センター、あるいは杵東地区環境センター、さらには鹿島藤津地区衛生施設組合、そして伊万里・有田地区衛生センターがあるわけですね。こういう状態でございますけれども、経費削減のためにも、市長、経費削減のためにも広域圏で取り組むほうがいいんだという考えはどのように思われるか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、全く同感ですね。ただ、現実問題として、今個々にあるわけですよ。大町にあって、北方にあってとかありますので、例えば、大町の施設だったら白石町長、あるいは大町町長と協議の場を持ちたいと思っています。そういった中で、行く行くは私としても——乱立しようですもんね。ですので、この議論というのは、もう不可避になってくるものと認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

私が言いたいのは、せっかく4市5町で——今、広域圏を含んでおりますので、4市5町で1回ぐらい話をして、1回されたそうですけど、話したらどうかという考えが次進んでいるんですね。だから、先ほど言いました西部広域圏の中で4つありますよという話をしました。

これは武雄市の衛生処理センター、新病院の前のほうにありますね。ここに行ってお話を聞いてまいりました。

ここでは、西村センター長さん、中尾係長さん、そして犬走さんに聞いてきたんですけど、ほとんどが中尾係長さんに詳しく聞いてまいりました、いろんなことをですね。非常に詳しく説明をいただきました。

それによりますと、まず構成団体ですけど、御承知のとおり武雄市、山内町ですね。竣工年度が平成12年度。そして、処理方式は膜分離——膜分離というのはフィルターをかけるということですね。膜分離高負荷脱窒素プラス高度処理。この高度処理というのは活性炭処理、これはみんなどこでもつくってありますね、活性炭処理。問題なのはここなんです。処理能力が98キロリットルに対して1日平均処理量が103.8キロ、オーバーしていますね。

これは杵東地区環境センターです。ここでは三根事務局長さんにお話を聞いてきました。笑い顔のよかですね。これは、構成団体は旧杵島6町ですね。杵島は7町ありましたが、山内町さんが武雄でしたので、残りの6町で組んでいるんですね。大町、江北、北方、白石、

有明、福富の旧6町です。ここは竣工年度が昭和59年、かなり古うございます。修繕しながら使われていますけどね。ここは脱窒素プラス高度処理。脱窒素処理というのは希釈水を使うんです。処理能力が100キロリットルに対して119.9ですね。わかっですよね、これは杵東地区ですね。

さらに、これは鹿島藤津地区衛生処理センター。これは塩田バイパスを行って、鹿島に入る前の川の手前の左のところにありますね。その場所ですけれども、ここでは桑原次長さんにいろいろ話をお伺いしてまいりました。いろんな悩みも聞いてきました。帰るときにちょうど局長さんもお見えになったので、局長さんと話しましたけれども、桑原次長さんに詳しく聞いてまいりました。

ここは、構成団体が鹿島市、嬉野市、それと太良町、平成5年につくられたんですね。この処理方式としては、膜処理プラス高度処理、活性炭ですね。ここの処理能力というのは、110キロに対して実に150キロです。非常に苦勞されている。苦勞しながら運営されている実態なんですね。だから、竣工年度と違う。先ほど大町を言いましたけれども、大町は古いけど、結構処理能力はあっです。その違いもあります。

これは伊万里・有田地区衛生センター、浦川事務局長さんと書いていますけれども、ここでは浦川事務局長さんにお話を聞いてきました。詳しくいろいろ話していただきましたけれども、カメラを構えたんですね。よかぎ、写真ば写させてくれんですかと。よかですよと言った後に、何すつとねと言われたけん、がんしてテレビに出そうだと思うと。いや、そいぎよか。おれはテレビに映るごとよか男じゃなかというて断られたですけどね。よか男ですよ。最後に言いんさったとは、おまえ、どこの馬の骨かわからんろうもんと言いんさったと思うですもんね。そいけん、こういうふうにしますと浦川事務局長さんにも承諾はとっております。

構成団体は御承知のとおり伊万里、有田、西有田ですね。平成5年に竣工されていますね。処理能力が135キロリットルに対して155.9ですね。このとき、浦川事務局長さんと話したのは、がんして広域圏で4市5町したらどうやろうかと話をしよったぎ、はっきり言われたです。高うなるぎかたらんと。それはそうでしょうね。安うなっぎ検討すると。安うなるぎ入るとは言いんさんやっただですけど、やっぱりどこでも苦勞はされておる。全部回って見ましたけどですね。

今言ったのを総合しますけれども、武雄市衛生処理センターは98に対して103.8キロ、伊万里・有田地区衛生センターは135に対して155.9キロ、鹿島藤津地区衛生施設組合は110に対して150.7ですね。そして、杵東地区環境センターが100キロに対して119.9ですね。総合計が443の能力に対して既に530キロ、87キロ毎日オーバーしている。それだけ4市5町、どこでも苦勞しているという実態があらわれたところでございます。

そこで、既に飽和状態だと、市長、思うんですね。だから、一刻も早い解決策を求められ

ますので、市長、せっかくの4市5町で、今、佐賀西部広域で仲よくとは言いませんけど、タッグを組みながら組んでいますので、こういうところでどうせつながりがありますので、話をしてみると、次の段階、ステップとして。どういうお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

黒岩議員の御質問、御指摘を伺いまして、ちょっと整理をいたしましたけれども、まず実際、あっち、杵東ですよ、あれは大町町ですよ。大町の杵東のところでもう既に一番パンク状態になっていますし、老朽化していますので、これは大町町長を中心として、施設を新しくする、あるいはここから先はまだ話をしていませんけれども、処理能力を上げると。ただ、そうはいつでも、それは対症療法にしかすぎません。ですので、いろんな広域圏、私もかたらせてもらっていますけれども、一回問題提起をしようと思います。

その中で、先ほどある担当の方がおっしゃいましたけれども、広域圏全体で安くなるほうにね、安くなって、しかも余裕を持った施設をつくらなければいけないということで、当面の話と中長期的な話を同時的に進めていこうと、かように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

大分なれてきました。結局、搬入しますね、し尿、浄化汚泥。その後に発生するのが、汚泥が発生する。これを今処分できなくているんですね、どこでも。つまり、武雄市では年間に1,346トン、汚泥が出ます。そして、杵東地区ではその汚泥を一回焼いていますけれども、やはりその残渣は、唐津のほうですけどね、ほかのところに持っていつているんですね。

鹿島藤津地区と2,051トン、毎年処理しています。そして、伊万里・有田地区では、これも焼却していますけれども、焼却前の数字では2,286トン。つまり、この汚泥発生量が年間に7,200トン、4市5町で出ている。これをよそに、ほかのところに今委託していますので、これを2万円として1億4,000万円、毎年出している。1万円としても7,200万円出しているんですよ。これが、毎年1億円以上の貴重な税金が支出されておりますので、広域的な視野、少し意味深なところもありますけれども、そういう視野で4市5町で考えていけば、削減できるのではないかという話ですけども、どのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

同感です。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

せっかくごみ処理で仲よくなった4市5町でございますので、同じ考え方でぜひとも次に進んだらと思っております。

次は、IT行政推進について、3D検索、三次元検索ですね——を使った行政事務の改革について質問をしてみたいと思います。

私は今までずっとIT行政、情報技術ですね、ITを駆使して行政の簡素化に努めるべきだということで何回となく話しております。

まず、先日、IT委員会を開いたんですけれども、何回となく開きました。総務省の川島先生を呼んだり、武雄のCIOの山崎先生を呼んだりして何回となくしましたけれども、防災についてずっと特化して話したんですね。そしたら、現在の災害対応状況ということではどうかということで、電話・プラスファクス・プラス防災マニュアルでしているんだという話ね。委員会が出されたのは、情報はどんどんどんどん入ってくると。ダブって入ってくるけど、なかなか整理ができない。まず、ダブって入ってくるということですね。もうそれは聞いとるばいという話もされんと。しかし、通知するときには今度は逆に見落としが出ることもあるというんですね。しかし、それには警告がないという話ですもんね。そういう悩みが出されました。

じゃあ、現在どうしているかという話をされましたけれども、ホワイトボードで整理、通報や報告があったときにこのホワイトボードにすべてを書き出していると。そして、対応している。地点の取り組み、地図、手順書ですね。こうしていると。このとき、CIOの山崎先生はこうおっしゃったんですね。電子黒板とホワイトボードを併用したらどうかと。電子黒板とホワイトボードを使用することによって、まず対策本部、これはテレビ画面で見ることができるというんですね。そして、さらには真っすぐパソコンへつなぐことができる。つまり、電子黒板のデータはパソコンに取り込むことができるねと、こうおっしゃる。ここまでだったら普通にできる。私がずっと言ってきたのは次です、次。

ここですけれども、ここは非常に手順書、複雑多岐にわたっておりますよね。このところに3D電子マニュアルを入れたらどうかと。そうすれば、真っすぐパソコンに行くんですよという話ね。

3D検索、ずっと前から言っていますね。3D検索、三次元的検索。つまり、Z軸から探すという話ですね。これは何回もしました。これは市長、余り難しく考えんで単純に考えてほしいのは、例えば、一升瓶のごまをばっと広げたとしますね。一番小さいのを探せといったらどうしたらいいですか。おろしですね。二次元だったらどげんしたかと。隣同士、ずうっと比べんばでしょう。文書はほとんど二次元の世界ですよ。これを立体化、おろしを使う。これは三次元でしょう。文書をそういうふうにして探すという考え方ですね。

だから、動物の絵本が上から見れば動物園になると話しましたね。1枚目にラクダ、2枚目にラクダ、上から見たら一遍でその本にラクダが何匹、トラが何匹とわかると話しましたね。サファリと一緒に。おもちゃの絵本を上から見れば、どの人形が、どのおもちゃが何個あるとすべてわかりますよという話です。そういう検索の方法なんですね。

検索の方法をここに書いていますけれども、この前も言いましたけれども、箱の中に砂がある。その砂から磁石で抜けば砂鉄が取り出せる。そういう話をここでしました。そのとおりですね。つまり、すべての書類、箱の中から必要な書類だけです。すべてをもって必要な書類だけを取り出すことができる。この能力があれば、3D検索ができるということですね。このところですね。

だから、その3D検索を使って3Dマニュアルでつくることによって、電子黒板やホワイトボード、今、すべての情報を整理していくと、こういう方向ができるということですね。

これは、総務省の川島先生ですけれども、川島先生がここでおっしゃったのは、行政の仕事は情報処理そのものだとおっしゃった。つまり、A地点で災害が発生した。市役所で仕事をする。そして、住民の皆さん、あるいは企業の皆さんへ便宜を図るということですね。

この真ん中に書いてあるのが市役所の仕事ですね。いろんな仕事があります。災害が発生したら、対策対応関連職員さん、あるいは大きかったら災害対策本部ができますね。さらには災害対応の予算もつくらにやいかんでしょう。議会も開かにやいかんでしょう。さらには災害発生、下のほうですけれども、通報、地域防災、いろんなことを情報処理されている、こう先生はおっしゃったわけですね。

これは今度、1つずつ項目的に書かれている。これも川島先生の黒板に書かれたのをカメラで撮ったもので、ちょっとぼけていますけどね、カメラで撮ったやつです。つまり、入力から承認まで、1から19まですべてが市役所の情報処理をしているんですよ。ただ、どうしてもその19の中でできない——17まではできますけれども、できないのが赤で書いていますね。18、19、つまり判断や承認は人にしかできないプロセスだと。逆を言いますと、1から17まではすべて機械でできるということでしょう、やり方では。

川島先生がおっしゃった行政の仕事は情報処理そのものと言われたこの考え方に対してどのように思われるか、答弁を求めたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

基本的には同感です。特に医療だったり、危機管理であったり、そういったところでは、その要素というのはさらに強まるというふうに認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

もう少し詳しくいきますと、現在、例えば、六角川の水位が1.5メートルを超えたという、情報が入ってきますね。いろんなマニュアルを期して、A排水機場ポンプを送れと。実際、これは古い職員さんたちは自分の経験でされているから、このマニュアルを——このところですね。マニュアルに明記してあることを1つずつ開かなきゃいけないかもしれませんが、開かれなくても、ちゃんとこういう順序どおりしているわけですね。だから、このところに先ほど言いました自動的選別ができる3Dマニュアルで自動選別していくということの考え方をするんですね。

これをもう少し詳しく書きました。情報が入ってきます。マニュアルで個々に対応しています。そして、いろんなことを、申請フォームや関連先情報を含んだマニュアルを送っているんですね。こういう仕事をしている。当たり前の仕事ですね。

これに3D検索、電子マニュアルを入れるということになりますと、すべての情報の中から機械的に必要なものを選別できる。そうすれば、国、県への報告や集計表を一括発行できるんですよ。国、県への報告や集計表が一括でできるということなんですね。だから、3Dマニュアルを使つて的確なと書きました。この的確なと書いたのは、一番最初に言いましたね。どうしても人間だったら、落ちたり、いろんなことが起こるんだと。機械であれば、そこは的確なことになってくる。そうすることと事務処理の簡素化、これにつながっていくんですよ。だから、イン、アウトの関係ですけれども、情報が入ってきますね。そしたら、市役所でいろんな処理をします。つまり、防災対策、国、県への申請書類、こういうのを自動的に選別できるのが3Dマニュアル、このところですね。

それで、アウト、住民の便宜を図ることができますので、理念的にはね。ここで市長にお伺いですが、私が半年かけて言っているこの3D検索を理論から実践へと思うんですね。今、この防災マニュアルということがいろんな見直しをされていますね、放射性の問題で。だから、理論から実践へと思います。それは今だと思えますけれども、市長はこのことに対してどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の場合は実践から理論に入っていきますので、一緒じゃないかもしれませんが、基本的には、これは大々的に行うよりは、まず一つ、訓練か何かやったときにのっけていって、最終的には、武雄市で今一番大切に思っているのが、ことしの9月の、また今回も原子力災害を含めて防災訓練を行おうと思っていますけれども、その訓練の場において、そこにつなげていきたいなと思っています。

ですので、まず、有事よりも平時のときの日常業務の小さい範囲の中で、これがどういうふうにできるかというのを試験的にまずやってみて、その積み重ね、平時と有事と積み重ねをして、ことしの9月に行われるところで大々的な試行的な訓練をしていきたいと思っています。これは2年前にもツイッターをもとにしても行いましたし、去年はソーシャルネットワークを使ってもやりましたので、ことしのテーマは3D検索がどこまで生きるかということをごひやってみたいというふうに思っております。政策部長、よろしくお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これは、今市長がおっしゃられたとおり、うちもIT委員会も防災マニュアルで勉強したんです。もう今、3日目ですけど、また今度、今月中でももう一回しようと思っているぐらいですから、防災について特化してずっとやってきているので、ぜひここで一致して、議会と執行部と一致して防災についてぜひとも仕上げていったらと思っております。ぜひよろしくお願いします。

次の質問は、福祉問題についてでございます。

あえて保険制度と書きました。国保問題ですね。保険制度について質問をしてみたいと思います。

まず、国保といえば、職業は何かという観点がありますけれども、公務員さんは共済ですよ。船員さんは船員保険ですか。大手の会社はけんぽ組合ですか、いろんなことがありますね。いろんな職業があります。じゃあ、国民健康保険に加入している職業は何かということをお伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

健康保険につきましては、職域の保険である被用者保険ですね、先ほど申されました大企業健康保険組合、あるいは中小企業の協会けんぽ、それから、共済組合等々ございますけれども、これが職域の組合であります。

一方、国民健康保険というのが地域保険ということで、市町村単位で存在をしているということになっておりますので、国民健康保険には職業という概念はございませんけれども、設立当初につきましては、農林漁業者、それから自営業者ですね、そういった方々を中心に国民健康保険に入っているというのが実態でございます。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

とんでもないこと言うですね。職業でないということはありませんよ。働いているところから金取るんですよ。もっと言いますと、病院に行くのに、例えば盲腸手術を、あなたたちは安いんですか。一緒でしょう、みんな。農林漁業者であろうが、水産業者であろうが、法のもとに平等なんです、日本は。すべて平等でしょう。国民健康保険であろうが、社会保険であろうが、何であろうがね、病院に行っただけの病気について差はないんですよ。あったらおかしいですよ。ないですよ。

しかし、私はあえて保険と言いませんけれども、それを受ける券、保険証ですけどね、それを取捨するのに金の違いがあったらおかしいですよ。本来、農林水産業者であろうが、先は一緒ですよ。農業者、一緒ですよ、病院にかかるのは。病院にかかるのが一緒であったら、それを手に入れるのに差があったらおかしいですよ。もともと農林水産業と自営業のための保険だったのが、だんだんだんだん変わっていったというのが現実じゃないですか。

これは、調べてみました。国保世帯の職業の推移ですよ。市長、よう見とってください。無職者、これは職業とは言えないですよ。今、部長は地域保険ということでごまかされたんですよ。それは地域保険という形かわからんですよ。しかし、日本国民がここで生きるということを考えたら、差があったらおかしいですよ。保険によって違うというのはね。まあ興奮しましたけれども、無職者がこの前に隠れましたけれども、今55.4%です。この実態ですね。だから、職業ということにはなりません。

昭和40年ですね、ちょっと冷静になりますけれども、昭和40年は自営業と農林水産業が67.5%、7割おられたんですよ。だから、無職者は6.6で余り問題なかった。このときは、国は総医療費の50%負担していたと。いろんな国保という仕組みがありますからね。ほかの保険からやってきますので。本来ならば、無職者がふえるに従って手当を厚くしなければならぬのを反対にしたんですよ。今38.5ですか、国がやっているの。物すごく減らした。減らしたけれども、実際自営業者の動きというのは、あるいは農林水産業はこうなる。今、2割を切っているんですよ。2割切っている人たちが、今言ったいろんな医療費、病院にかかったのを、この人はみんな抱えるんですよ。じゃあ、これが高くなるのは当たり前話ですね。こういう仕組みがつくってあるわけです。

さらに国民健康保険は前年度課税ですね。ほかの保険はみんな現年度です。そしたら、前年度高い給料をもらっていた人が国保に真っすぐやってくれば、高額、一番最高額になりますけれども、一回ここに入るんですよ。退職後、任意継続保険というのに入ります。2年間おられますからね。ここで安くなってから国保にやっつけられるんですよ。こういうシステムをつくってあるんです。

だから、もっと言いますと、元気なときはほかの保険で働いて、一生懸命その保険に加勢する。病気したり、退職したりしたら、国保にやってくるんですよ。もしそうであれば、国保に入るのであれば、元気なときに働いた保険金は持ってこいと言いたいですね、国保か

から見れば。それはなくて、元気なときに向こうで働いておって、病気したり退職して、銭のなかごとになってからですね、50%全部年金が入ってくるわけでしょう。病院代は、国保を持ってこんぎ、安かぎよかですよ。むしろ、たっかですよ。こういう制度の制度疲労をもう起こしているんですよ、市長ね。崩壊寸前なんです。このことに対してどのように思われますか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

思い出すと、黒岩議員は私が市長就任時、一番最初に一般質問されたのが国保の崩壊の話をされました。多分議員はそのころから、議事録も精査しましたがけれども、一貫して同じことをおっしゃっています。それ以上に国保そのもの制度が崩壊寸前とおっしゃっていましたがけれども、もう崩壊しています。そのスピードが私たちが思った以上に速くなっているということをおっしゃっていますので、私としては崩壊寸前どころか、もう崩壊、破綻しているというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

本当に切実な問題ですよ。国保は黙って他保険から来る人も受けているんですよ。先ほど言いました農林水産業、自営業の方のためのを受けているんですよ。だから、国保はこんなに違うんですよ。保険料です、これは。つまり、300万円の4人家族で国保税は50万9,300円、独身で42万3,000円ですよ。400万円の家庭をとってみました。そしたら、協会けんぽのほうでは、4人家族であろうが、独身——これは一緒ですよ。これは家族によって違います。国保だけのあれですからね。そしたら、4人家族で23万9,976円、独身で23万9,000円を越しますね。400万円の4人家族では64万300円。それに対して協会けんぽが31万3,302円ですよ。独身では55万4,000円に対して31万3,302円、これだけの違いがあるんですよ。

300万円の段階で4人家族は26万9,324円高いんですよ。倍払っているんですよ。それは稼ぐ人が少ないからですよ、パイから見て。そこにしわ寄せが来ている証拠なんです。300万円では独身で18万3,024円高い。400万円段階では、4人家族で32万円も高いんですよ。独身で24万円です。これを考えれば、今、年金の統一化を言っていますね。7万円か、ほか言い方をですね。ぜひ、保険料の統一ですよ、国がしなければならぬのは。これは市長に文句言っても一緒ですけどね。

農林水産業や自営業のために始まったものが、こういう状態で黙っているからといって、とことんまでいじめられている姿なんですよ、これは。余り大き過ぎますね。

そこで、よく言われるそういうことから、私は一般会計からの補てんという考えを持っているんですね。これはお願いじゃないですよ、私が言っているのは。堂々と言いますけれども、もしこれをしなければ、ほかの保険からの加入は認めないと、国保は。もう病気で入ってくるとは要らんよと。来んなて。職員さんたち、もう入れんところなんですね、本当の話がね。稼ぐ人が少ないですから——と思います。

そうならないためには、やはり下支えですよ、制度の。このことについて市長はどのように思われるか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これもまた黒岩議員が、まだ我々がもう少し距離があったときにおっしゃったことなんですけれども、一般会計の繰り入れをすべしだということをおっしゃっていて、その当時、正直言ってそこまでまだ認識がなかったんですね。

ただ、先ほど黒岩議員からもるる指摘がありましたように、国保そのものが崩壊をしているという中で、昨年12月に吉川里己議員が質問をされました。これを受けて、私どもとしては庁内の検討会議を立ち上げました。既に4回にわたっていろんなシミュレーションをしております。

その中で、我々としては一般会計からの補てん、繰り入れはしようと思意をしたところがあります。ただ、その時点の額をどれだけするか、あるいはどこの時期からするかということについては、もう少しお時間をいただければありがたいと思っております。その中で、ぜひこれは市民の皆さんたちに申し上げたいのは、一般会計といえども、皆さん方の税金なんですね。多くは皆さん方の税金です。一般会計から国保に繰り入れをするということは、一般会計で行おうとする必要な事業にしわ寄せが来るということだけはぜひ認識をしてほしいと思っております。

その一方で、我々は国と違って徹底的に行革をやります。徹底的にやった上で理解を求めますけれども、その部分というのは、あれもこれもというのはもう無理です。あれかこれかといったときに、国保を支えるといったときは、必ず、繰り返し言いますけれども、しわ寄せとなる事業があるということだけはぜひ御認識を賜ればありがたいと思います。

いずれにしても、我々としては優しい福祉で、黒岩議員がよくおっしゃっておりますけれども、ヒマワリのような福祉をしていきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

私は北方町出身ですけれども、昭和50年に議員になりまして、国保問題は一番最初に取り

上げた問題ですね。当時から北方町では農業収入が落ちた場合、前年度課税ですので、そういうときはちゃんと下支えをしてきたんですよ。農業収入が落ちたときには、前年度課税で税収が落ちますので、ちゃんとしてきたという経緯もございます。だから、結構一般会計は補てんしてきた。しかし、だれかが黒字だから安うせろと言われた途端、変わってきたんですけどね。やはり農林水産業、自営業は特にですけども、その方たちを助けるためにもやっぱりしていかなければ、制度そのものが狂っていますからね——と思います。

次は、スポーツ振興と市勢浮揚ということを書かせていただきました。少し難しいように感じますけれども、実は私、これはこの前の議会で言ったんですけども、公認競技場をつくって、交流人口をふやして市勢浮揚につなげるべきではないかという考え方ですね、これはさきの議会でも言いました。

これは、山内町のレクリエーションゾーンということで写真に撮ってきました。テニスコート、山内はテニスコートが多いんですね。よそ以上に多かろうと思います。ほんに多かごたっですね。グラウンドも広かですよ。そして、山内のここに、なぜレクリエーションゾーンに目をつけたかと。一番最初に言いますけれども、ここはパークゴルフ場もほかに持つとんさっですね。グラウンドゴルフ場もするところをほかに持っている。さらにはゲートボールすっところも持つとんさっ。ほかにいっぱい持つとんさっですね。北方みたいに狭くて差しさわりのあるというのですか、議長、何というかな、差しさわり。障害の結構重ならんとですよ、というところなんです。だから、このレクリエーションゾーンをパワーアップしたらどうかという考えですね、パワーアップ。

つまり、これはグラウンドですね。これは公認グラウンドの400をとるには狭いんですよ。しかし、北のほうに延ばすことによって、今トイレがありますけれども、400が十分にとれるんですね。しかし、ここは幅が非常に広いということで、奥のほうに走り幅飛びのゾーンもとれるわけですね。左手にはプールがあります。このプールは珍しく——言い方は悪いですけども、50メートルプールなんです。公認プールにできる。真ん中の白い建物は、白くてきれいですけれども——山内から文句言わるっかな。これはスポーツセンター、ほとんど傷んでおります、という状況のとを撮ってまいりました。

これは佐賀県の総合運動場です。これ写真ですね。真ん中に芝を植えたトラック競技ができる場所ですね。北方の議員がここの芝の問題で戦いよごたっばってんですよ、私は北方に芝生を植えるべきでないという考え方ですね。それを山内に植ゆっとかと言わるっかわからんですけども、当初言いましたように、うちみたいにグラウンドゴルフ場をするとのなかばいというんじゃないで、ちゃんとあるんですね。そういう広々とした条件が整っているからこそ、できる。

それで、杉原前議長に聞いたところが、非常にサッカー人口が多いと。ナイターサッカーのどがんでん多かばいと。芝生はぜひしてくれんやという前議長の考えです。じゃあ、よか

ねと。ここで言うよと。ぜひ言うてくれということですので、半分は了解受けたつもりですけどね。市民の皆さんも、町民の皆さんも異論はなかとじゃなかかと。市長、うちでつまずいたのは、グラウンドゴルフとか、ほかの団体がどうしても困るという意見が出て、せっかくな案でしたけど、うちのまちづくり元部長のせっかくな案でしたけど、そこで壊れました。ここはそういうことはないというふうに思うんですね。

これは、先ほど言いました50メートルのプールです。こういうふうにそろっているんですね。だから、公認競技場をつくることによって、例えば、ラグビーをすれば合宿にみんなぼんと来るといいますね。そしたら、合宿に来れば、当然泊まる場所もあるし、何分にも交流人口がふえる。市長がいつも言うように、交流人口がふえることによって市勢浮揚につながるべきだという考えを持っていますけれども、どのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

今、黒岩議員から質問がありましたように、認定競技場等をつくりましたら、交流人口が大幅にふえる。それと同時に、いろんな経済効果というのは見込まれるというふうに思っています。

今言われました陸上競技場につきましては、サッカー認定の競技場をつくるについて、広さ的に言うときりぎりの広さかというふうに思っています。そうすると、いろんな認定を受けるための工事とか、そういうものが必要になってくるかというふうに思っておりますけれども、大会誘致を有利にするための競技場にかえると、要するに認定競技場等にかえるということであれば、どれくらいの整備が必要となるのかということの財政状況を勘案しながら、慎重に対応したいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

それは部長、昔からの知り合いに文句言いとうなかばってんが、反対なんですよ、考え方が。まず、するためにはと考えていかなければ、今のまま狭い——最初言いましたね。やり方によってできますようですから、公認競技場をつくることによってできるのかから始めんぎ、そこにはまるのか、はまらんのかと考えれば、何でもできない話になりますので、それはぜひ、そこだけは市長、性善説でお願いしたいと思えますね。

次は、放射線被曝問題に移りたいと思えます。

これを最後に回したのは、実はけさの新聞を見てきたんですけども、原発、将来的に廃止16人とか、いろいろ書いてありましたね。そして、ここに例えば、震災瓦れき受け入れ加速と書いてありますね。人道上でどうかと政府はいつも言っていますけれども、これは震災

瓦れきで怖いのは、1キロ何ベクレルかと言いきさつですよね。安全ですよと。じゃあ、1キロに一つの放射性物質があった場合は、トンを持ってきたって、放射性物質は幾らになるかということですよ。その放射性物質はどっちに行くのかと。地下に行くの、煙に逃げるのかと。そういうことを政府はちゃんと、市長が言うように数値にあらわすべきだと。そして、どうしようもなく瓦れきを持ってきて、そこに放射性物質がたまった場合は、それはちゃんと引き取りますよと。これがなければ、やっぱり住民は不安だと。だから、双葉町、近くについても、中間処理というけど、最終処分ができない以上は無理だという話をしていきますね。みんなそこだと思ってるんですね。

それで、最初ですけれども、反原発、脱原発、いろいろありますね。私はそういうことは抜きにして、いつも言っていますけれども、すぐ近くに玄海原発がある以上は放射性被曝から武雄市民を守るという考え方をせんばいかんやろうもんということで、一貫して主張してまいりました。

これは、佐賀県武雄市樋渡市長が3月定例会の演告のときに言われた言葉を写してきました。国がなすべきことは広域処理の法律をつくること。そのとおりですよ。そして、皆さんが不安に思っている基準を国際基準に照らし合わせて、それを法律に書き込む。少し早く言いましたけれども、私はこれを聞いていて、思わず拍手したんですね。読み返したら、不安に思っている基準と書いてあった。これは私、勝手に放射能ということでとりました。だから、拍手をしました。

次の日の新聞を見ました。私、佐賀新聞ですけどね。広域処理の法律をつくること、一緒だった。その次、変わっていたんですね。これは恐らく記者会見であったと思いますけれども、住民の不安に配慮して放射線物質——ここですね、放射線物質の国際基準を踏まえた数値を書き込むと、こういうふうに乗った。このとおりですね。ここが問題なんですからね。今言ったようにですよ。

そしたら、政府みずからが放射性物質、これをどのように処理するのかを打ち出さなければ、河原木一本持ってこられん。瓦れきの支援はできない、復興支援はできないんですね。瓦れきの上に網がかぶさっているんですね、放射線という。かぶさっていないかもしれせん。しかし、それをどうすると決めさえすれば簡単にできるわけです。逆にしなければ絶対できない話です。それを1年近くほうっているんですよ。このことについて、市長、もし考えが違ったら後でいいですか、これ、つけ加えましたので。

本題に戻りますけれども、これは原発、反原発にかかわると言いましたね。第三者委員会が古川知事の発言が決定的な影響を与えたと、それが問題のきっかけになったというわけですね。また、九州電力のほうは古川知事の発言の影響に触れずと、こうですよ。これは九州電力のメール問題なんですよ。

そして、これは去年の新聞ですけれども、九州電力社長、年度内辞任へ、やらせ問題一定

の区切りという話載っております。ここで市長、これは市長のやり方も違うと思えますけれども、知事が九電の社長さんと会ったときに、会場の雰囲気を見て決めるということを行ったらしいですね、はっきりわかりませんが。もしそう言えば、私が九電の社長であれば、何も言われなくても、ちょっと賛成派の少なかり困るじゃと、わいどん知つとんけん行けとやっぱり言うですよ。おれは、これはやらせとは思わん。逆に私はよく反対のほうに駆り出されたほうですからね。玄海原発にも行った、反対運動に。だから、そのときそのときによって我々は動くわけですから、思想をあらわすためにね。

ただ、知事さん、市長も一緒ですけど、上に立つ人は雰囲気を見てとかじゃなくて、たとえば賛成が一人しかいなくても、私は産業推進のために原発は要るんだとか、ほとんど賛成派であっても、いや、核と人類は共存できないんだと、だから私は反対だとかね、そういうことを言うべきだと思いますけれども、市長はこのことに対してどのように思われるか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、この質問は燃えますね。やっぱりトップというよりも、政治家たる者は旗幟鮮明です。古川知事さんの最大の誤りは、そこに自分は中立だとかね、それは学者で十分ですよ。政治家は旗幟鮮明。病院問題のとき、そがんやったですもん。自民党の中でも反対ですよ。しかし、それはやっぱり自分の断固たる信念と、そういったことで宮本栄八さんもむちゃくちゃ書きよんさったですね。しかし、それにひるんではだめです。そして、我々は一定の説明責任のもと、やると決めたらとことんやるということが政治家と首長に——議会も同じですよ。ですので、私はそのように思っております。

だから、その認識が、軽率な私が古川知事さんのような偉い方に申し上げるのも甚だ僭越ですけども、そこが古川知事さんと私の違いだと思っております。あとは全部、古川知事さんのほうが上です。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、今言われたところですけど、どっちみちですから言えますけれども、もし会場の雰囲気を見て決めるという考えであれば、全県民に聞くことですよ、聞くのであれば。それは大衆迎合と言われんでしょう。一部の者に言うとは大衆迎合ですよ。

だから、私はよくここで言えますけれども、またそこで時間足らんかな。右の道が舗装してあった。左の道がイバラの道だった。政治家はどっちを選ぶかというときに、その先を見

てきて、舗装の先には川があるよ、イバラの先はすばらしい道がある。ここを見て、半歩先を見て、ぜひこっちだということですね。皆さんどっちでしょうかと聞いたときは、みんな舗装の道を来ますからね。これだったら、私、政治家失格だと思いますし、今のは3段丸を――花丸ですね、市長に上げたいと思います。

ちょっと時間がずれましたですね。

これが去年やったですかね、輪切り、輪切りの渡しじゃないですけども、同心円内の避難訓練がいまだになされておるですね。PAZ、UPZ、PPZ、これは前にも言いましたので少しはしよりますけれども、PAZとは予防的防護措置準備区域、ややこしゅう書いてありますけれども、直ちに逃げろというところですね。これが3キロから8キロが10キロに変わったということでしょう。それからUPZ、30キロ圏内、うちは圏外ですからね。これは緊急時防護措置準備区域、いろいろ書いてありますが、これはいわばいつでも逃げらるっごとしとけ、直ちに逃げろ、いつでも逃げらるっごとしとけだと思うんですね。

次に50キロ、PPZ、これが今度びっくりするところですけど、ヨウ素剤服用対策準備区域、ヨウ素剤持っとくというところでしょう。準備しとくと。放射線は30キロ未満しか飛ばんと言いよって、50キロにこればされたわけでしょう。そしたら、当然ヨウ素剤配付に不安を持つ自治体が83%。当たり前なんですよね。このヨウ素剤と、ずっと言ってきましたけれども、24時間以内に与えなければ効果はないんですよ。こういう訓練の仕方をしている。

これは私、もう使い古しましたけれども、去年の6月ですよ。福島原発の、そのまま玄海原発が爆発したらに載せたんですね。去年の6月、非常に恐ろしかった。黒岩は風評被害ば広げとっとやなかかと言われて恐ろしかったですね。しかし、今ではみんな、これを書いてくれるんですよ。

これは、私よりずっと偉い九州大学応用力学研究所の竹村俊彦先生が1週間ぐらい前ですか、テレビで言われたことですけども、福島原発事故をそのまま玄海にのせたらどうなるかという話。当時の風とかね、あるいはまた、雨とか計算された結果が出ていたんですね。

放射性物質は、見てください。議事録、書かれんですね。九州一円に拡散するんです。大分まで赤い点が飛んどったですね。そのとき興味深かった話は、同じ状態で長崎に雨が降ったんですよ。そしたら、そこは100から300ベクレルの避難場所に指定されるような放射能が落ちたことになるんですね。だから、九州一円、どこでも一緒だというところに対して、武雄が30キロ以外だからといってやられよったでしょう。アメリカははしよりますけれども、320キロを16日ですよ。3月11日から、東京もでしょう。もう20ミリシーベルト飛んでくっばいという話をしよった。幸いにして風で加勢したんですけどね。

私が言いたいのは、武雄は伊万里市の避難場所になっていますね。これは四、五日前にテレビで言ってあったんですよ。それを写しました。テレビを写したらいかんですかね。私が言いたいのはここです、市長。東日本大震災での教訓、避難誘導をしていた消防団員が内部

被曝で大変な目に遭ったんですね。知っていたらマスクをしていたというんですよ。だれでも加勢するから教えろというんですよ、話をね。それから、避難者受け入れ、これは言いましたね。ある小学校ですよ。多分としか言いませんけれども、逃げる時間がおくれた。それで、多くの犠牲者を出したんでしょう。避難場所というのは、そういう目に遭うんですよ。武雄市、避難場所ですね。

だから、同心円の避難計画を、この防災計画、爆発する前ならいいけど、爆発してからは違うと思うんですけども、繰り返しますけど、このことについてどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、私も以前から申し上げているとおり、私は孫正義ソフトバンク社長と3月22日に田村市の総合体育館というところに入りました。そのときからしても、あれは全然——そのときから同心円とはだれも言いよらんわけですね。したがって、国のやっていることは間違いだと思います。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これは、市長がボランティアに行かれたですよ、皆さんと一緒に。そのときに議長も行ったでしょう。おばちゃんが、雨の降ってくっごたっけんがもうやめんしゃいと言いんさった。まさにあれですよ。先ほど言いましたのも、上空を飛んでいたんですよ。シミュレーション、竹村先生によれば。そして、長崎県で雨が降っていたときに、そこがシミュレーションでなるんですよ。上空を素早く飛ぶ。だから、30キロなんとか、堂々と言ってほしいのは、放射性物質に対する影響なんですね。

これは御存じですね、福島第一原発、水素爆発。これは福島第三、水素爆発ですね、原発の。ここはレベル7なんですよ。レベル7というのは、放射性物質が幾ら飛んだかがレベル7でしょう。びっくりする話か知りませんが、ここの福島での放射性物質が飛んだ量は、広島原爆の168倍飛んだ。これがIAEAに報告されているんですよ。本人申告だからね、その倍は飛んだんじゃないかという話がされているぐらいですよ。

つまり、放射性物質、爆弾とは放射性物質を飛ばすためにはしないんですからね。爆弾というのは、瞬間的な熱線、何千度の熱線で殺すわけでしょう。その副産物が放射性物質ですからね。その違いがあるということは認識しておってもらいたいと思います。

これはチェルノブイリ、ちょうど真ん中のところが爆破で飛んだところですね。数秒間で一生分の放射能を浴びた人もおるんです。

その隣、煙突が立っておるでしょう。爆発力はそうすごくないけど、放射性物質がレベル7で飛んだというところですね。

これは、ブラボー水爆実験、古い方は全部知っていますけれども、ビキニ環礁の水爆実験ですね。市長、今言うように、原爆かれこれの爆発の大きさよりも、放射線量がどれくらい飛んだかを問題にしなければならないと思いますけれども、このことに対して答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

こうモニターがあると何かいいですね。市民の皆さんね、実はここにもモニターがあって、3カ所あるんですよ。非常にこれ、わかりやすくいいですね。私も今度答弁をこれでやろうかなと思っていますけど、それは冗談ですけど、何でしたっけ——ああ、そうか。放射線量の問題です。

私は、全くそのとおり。これに加えてどこに飛んでいったかと。だから、飯館村だとか、そうじゃないですか。全然同心円でも北西のほうに50キロ以上離れていますよね。あと、先ほど議員ありましたように、仙台で我々が上田議員とか一緒に作業をしていたときも、おばちゃんの言いんさったですもんね、早う逃げんばと。特に牟田さんとか、山口昌宏さんとか、僕に言いんさったとが気にかかったところでありましてけれども、とにかくそういったことで避難をしてくれということをおっしゃったというのは、やっぱり皆さんがどこに飛んだかということに気にされている、その証左だというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

本当にうれしい限りでございますけれども、これは水爆実験で60年後の様子が出ておりました。市長、今よくわかるとおっしゃっていただきましたけど、これをつくるために1カ月以上かかったですよ。泣き言ですけども、市長、これは1カ月以上かかった。上田さんとか、吉川さんとか速かでしょうけど、指一本しか動かし切らんぎ、長うかかる。長うかかって、けさも実は4時に目が覚めて、ああ、あそこはあがんしゅうと思うて、5時から一生懸命1時間ぐらい打ちよったです。あいば変ゆうて。毎日それのおもしろかと言うと怒らるっかね。と言いながら、こうしたほうが市民の皆さんによくわかるんじゃないかとか、いろいろ工夫ができますね。だから、ぜひだれでも、部長さんたちにも——おれと一緒に年違わんですね、おれよりかわっかですね。

本題に戻ります。

水爆実験の60年後の様子がテレビに出ていたんですよ。このエヌエタック、これは島に

帰ることができたところですね。ロングラップ、これは帰島できなかった場所。これはビキニ島から遠い、近いじゃないですよ。近いじゃない。何があったかといいますと、ビキニ島で水爆実験があったときに放射性物質は上のほうにぼんと上がったですね。そして、雲状になっていって、これが風に乗っていって、雲がこう出てきたんですね。この雲に乗って放射性物質が飛んでいった。つまり、今見てくいたですか。苦心してつくったですよ。風の方に飛んでいく。同心円じゃないですよ。そして、エヌエタック、戻れたところの市長さんが、福島の人が本当に戻りたいなら放射性廃棄物をしっかり管理すること。市長が最初言われたのと一緒ですね。

それと、河上和雄さん、元東京地検の方です。これを聞くと番組わかりますね。この方が放射能の怖さは福島も全く同じだと。水爆は恐ろしかと言いつたですけど、放射性の怖さは一緒だと言われたんですね。エヌエタック地方のジャクソン・アディング市長さんは、放射性物質をしっかりと管理する方法を見つけることとおっしゃった。

今、除染がよく言われますね。年間1ミリシーベルトを超える地区は、国が負担してもやるんだと。勢いはいいですよ。しかし、心配なのはこの除染。重機はいろいろあっても、除染で出る水と土、これをどうするのかと。先へ行きましたけれども、どうするのかということですね。つまり、放射性物質の最終処分、これを最終的にどうするんだ、そっちから決めなければ中間貯蔵場もできないんですね。それを政府はしなければならないということですね。これも新聞に載った。

行き場を失う核のごみということで、核燃料サイクルが今、もうせんといいよでしょう。フランスもやめたんですかね。それで、使用済み核燃料、年間約1,000トン出ています。今はとまっていますからね、ほとんど出ませんけれども、毎年これくらい出ている。これの行き場がない。そして、上に今書きましたけれども、再処理中止なら返還しますと。冗談じゃなかですね。持っていったとを持って帰らすということですよ。

今度、玄海町の町長さん、こうおっしゃったんですね。原発3号機の再稼働条件として保管場所確保が原則という中で、あくまで国が安全を保障する。これは当たり前ですね。再稼働で——ここですよ。再稼働で新たに生まれる使用済み燃料の行き場、新たに生まれる使用済み燃料の置き場がないままでは稼働は容認できないと言われた。つまり、使用済み——核を私は入れさせていただきました。核燃料ですからね。使用済み燃料の行き場がないままでは稼働の容認はできないということを玄海町長さんが言ったということが新聞に載っていました。

先ほど言いましたように、繰り返しますけれども、アディング市長は放射性物質をしっかりと管理する方法を見つけることと。この管理、最終処分ということですね。最終的にどうするのかということとはちゃんとすることだということですよけれども、国はまず放射性物質の最終処分方法を定めるべきだと思いますけれども、まずそこからしか始まらないと思うん

ですけれども、市長はこのことに対してどのように思われるか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も場所を含めた最終処分方法を決めることがまず第一だと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、市長も燃える思いで瓦れきを持ってこられた。本当わかるんですよ。だれでもそうしてやりたい。しかし、上に網がかぶっていますからね、ちゃんと網を取ってくれよと、国が責任とってくれよというところなんです。どうするのかというのをね。これはいずれしなければならぬ問題です。これはやっぱり特化してすべきですね。私もそう思います。

ベクレル、ベクトル、あるいはシーベルト、グレイ、いろいろ言われますけど、なかなかうちの区長さん、この前言われたんですけれども、幸生、わいが言うといっちゃんわからんよと言われた。きょうはテレビモニターを使わらん、じっくり言おうで思っばってんですね。

ベクレル、ベクトル、力というのは、雨に例えたら雨量ですよ。どれだけ雨が降ったか。それから、シーベルトというのは人体に与える影響ですので、どれだけぬれたか。かっぱ着とった場合、あるいは家の中に入った場合、いろいろ違うですね。これがシーベルト。

さらにはぬれる部位での影響と書いていますけど、これはグレイと書いていますけれども、足がぬれたか、腹がぬれたか、背中がぬれたか、頭がぬれたかで違うですね。これがグレイなんです。だから、ベクレル・イコール・シーベルトと、こうならんとですよ。普通だったらなりますけど、これだけはならない、与える場所が違うからシーベルトとベクレル。今の政府の発表を見たら、わざとわからんごとしよっじゃなかにゃというぐらいの状態ですね。ベクレルなんです。どれだけ雨の降ったかでみんな逃ぐっでしょう。わい、傘差しとらんぎ、ずぶぬれになっくしゃはその後の話ですかね。雨の降るけん逃げろですよ。

これは去年11月1日のセシウム134、137のが飛んだ状況ですね。これは注目してもらいたいのは、この水色ですね。これはここですけれども、黄色はもちろん逃げるところですよ。赤は絶対逃げるところですね。その外の30万から60万というのが、これはチェルノブイリでは移住を奨励したところなんです。30万ぐらいのところですね。

これは、チェルノブイリの避難状況ですけれども、今言いました水色はここですね。一番右下。30万から60万の水色はどこに当たるかといいますと、ここですね。移住を奨励するところ。この60万というのはもう一つ上ですね。強制移住ですよ。赤はもちろん強制避難の場所ですね。先ほど市長が言われた飯館村、これのほとんどは黄色ですよ。赤と黄色ですよ。

武雄もこの状態になる可能性は十二分にあるということです。強制避難のところですね。

しかも、ここの単位ですけれども、単位は平米当たりのベクレルですよ。だから、1キロに1個入っているのを10キロ集めれば10個になります。ベクレルである以上は。私はそう思います。

これは、2月18日、雪が降りました。我が家の2階から写したんですけれども、わずかな雪でも目に見えますね。雪は当たり前、目に見えます。放射性物質は目に見えない、におわない、痛くもない。だから、非常に難しいということです。

これは、3月15日に風はこっちの方向に吹いていたんです。当然放射性物質はこっちに飛んだ。そのとき、千葉の上空で雨が降った。ここは柏市やったですか、ホットスポットで来たんですね。東京に向かっていたんです。しかし、幸いなことに午後からは風が変わったんです。それで、こういうふうには飛んでいったんです。

つまり、放射性物質というのは、風により飛来し、自然に落下する。そして、飛来中に雨に遭うと、先ほど市長言われたようにね、雨の降ってきよっけん、はよ家ん中に入んさいということに、早く落下するからなんです。

これは飯館村です。うちとまひとつということ去年の6月からずっと言い続けておるところですね。30キロ圏外です。ここら辺、議長、若木んにきぐらいまでね。つまり、年間20ミリシーベルト未満、早ければ来春と書いてあったんですけど、今春ですね。今つくっていますので、今春にも避難指示を解除と。それは、20から30ミリシーベルトは居住制限区域なんです。飯館村は。だから、30キロ圏外であっても、飯館村は帰村保護は本当にあるんだろうかという心配をされておる。だから、思い出してください。3月16日ぐらいですか、ほとんどのメディアは飯館村におったんでしょう。何で逃げんとかと。みんな言っていたのはここなんです。

そして、IAEAもここに行った。真っすぐ飯館村に行ったでしょう。こういう状況だからですよ。だから、風上より風下のほうがひどいということもあるということをおもうとかにやいかんということです。

それで、同心円避難では武雄市も放射線から守ることはできないという考え方は、去年からずっと言っていますけれども、そういう状態ですね。

繰り返しますが、20から30ミリシーベルトは居住制限区域、その赤。50ミリシーベルト以上は帰還困難区域。帰還困難区域ということであれば、早く結論を出してやって、先ほど言うように、最終処分をどうするかと考えて、全村移民でも考えにやいかんという場所だと思わうんです。

これは、先ほど言いました放射性物質が飛んだ九州大学の応用力学の先生ですね。先ほどこれは出したですね。九州一円飛ぶんだぞと言われたんです。放射性物質は目に見えない、痛くもない、におわない。だから、核拡散予想図、これをやっぱり主体にすべきなんです。

しかし、斑目委員長は当てにならんといまだに言っているんですよ。だから、我々から、30キロ圏外の我々から声を大にしていかなければならないと思いますけれども、このことに対してどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

斑目さんですかね、あの委員長さん。（「でたらめ」と呼ぶ者あり）でたらめ委員長さん。あれはでたらめですね、本当。早うやめてもらったほうがいいですね。もうむちゃくちゃですもんね。

朝日新聞のプロメテウスの神話、たしか2面のところですかね、ずっと今——今はイギリスのことを書いてありますけど、あれば見よったら、何でこの人がここにおんさつと思うですね。ですので、彼の言ったことと逆のことをやればいいと思いますよ、本当に。彼のせいで、あるいはその当時の文科省、あとは原子力安全委員会ですよ、全くスピーディは役に立たんと言いつたですもんね。しかし、一番我々が今、これは歴史の教訓として責めるわけじゃありませんけれども、スピーディをもとにした拡散予想図というのを最大限重視すべきだと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ありがとうございます。これは原子力安全基盤機構というところですよ。これは安全検査をしていなかったという話ですね。これは、丸写しです。はい、そうです。これはみのもんたさんで出たんですね。検査されて、一部検査が未検査のまま報告されていた実態もあります。

それから、ほとんどが天下り団体ですね。原子力村なんでしょうね。だから、日本の原発は本当に安全確認されていないという状況がみのもんたさんのところで出ています。安全性、中立性に欠けていると。少しはしよりますけれども、出ていますね。だから、不十分であるということですね。これは飛ばします。

これは、先ほども言ったチェルノブイリであった事件ですけども、爆発力じゃなくて、放射性物質がどれだけ飛んだかということが問題だということですね。レベル7です。

次に、これは放置された観覧車、168の町や村から人がいなくなったというんです。住まれんごとなつたと。スラブチチと50キロ離れたところがありますけれども、そこにみんな山を切り開いて移住していったんです。2年後にですね。そして、そこからチェルノブイリに働きに行きよつた。比較的少ないところに移つたんですよ、みんな町をね。

それから、これは放射性物質に汚染され、廃棄されたバスですね。

これは甲状腺がんにかかれた方、8歳のときにかかったと。そして、ずっと流産をした

んですね。これは甲状腺がんにかかった手術の跡ですよ。甲状腺がんにかかった手術の跡ですね。8歳といえば、我が孫と一緒にですよ、市長。チェルノブイリでは甲状腺がんが多発した。甲状腺がん、5,000人以上の子どもが被曝したんですね。こういう実態があり、もっと亡くなったという話がありますよね。

だから、ジガーロ・ボロディーミルさん、ちょっと急ぎますけれども、新しいまちを必要と、ここです。チェルノブイリでの経験を生かしてほしい。それから、チェルノブイリ博物館の館長さんは、原発のような技術は役に立つかもしれないが、次の世代にどういふ影響を与えるかを考えてほしいということですね。あと時間、何分あつですかね。もうなかとかな。

ちょっとアップしてくれんですか。おれがだみ声で言うよりも、静かな言葉がいいかもわかりませんがね。（発言する者あり）済みません。ちょっと時間を区切られておりますのでね。市長、これはわざと読みませんでしたけれども、きらきら輝く瞳をした未来を担う子どもたちですよ。先ほどのあさひ保育園、市長、通いよったでしょう。あの子どもたちのことを思ったら、やっぱり子どもたちに涙を流させちゃいかんと思わんですか。私たち大人は重大な責任がある。チェルノブイリも見習う必要があるということをおし上げて、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

以上で23番黒岩議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、5分程度休憩いたします。